章

第6章

## 第2章 全体構想:将来都市像・まちづくりの目標

第2章では、現況と課題を踏まえ、目指すべき将来の都市の 姿と、その実現に向けたまちづくりの目標を示します。

## 将来都市像

まちづくりの理念は、第2次熊谷市総合振興計画の基本構想に示される「将来都市像」に即して定め、上位計画と一体となって取り組み、実現を目指します。

#### 《将来都市像》

#### 未来に向かって人や地域がまとまり・つながるまちくまがや

現在の熊谷市は、二度の合併を経て誕生しました。各地域の先人の知恵や努力が ワンチームとなって、県北の中核都市として発展を遂げてきた熊谷市。そのレガシ ー(遺産)は、いつの時代も変わらない価値を持ち、豊かな自然環境や歴史・文化 として、今を生きる私たちに引き継がれています。

一方、私たちを取り巻く社会環境は、人口減少・少子高齢化などによる都市の低密度化や激甚化する自然災害等、劇的な変化が生じています。これからの「まちづくり」は、そのような目まぐるしい時代の変化に柔軟に対応していく必要があります。

そこで、これまで私たちが受けた恩恵を次世代に届けるとともに、安全で暮らし やすい、住み続けたいまちを創っていくため、本市の将来都市像を < 未来に向か って人や地域がまとまり・つながるまち くまがや > と定め、持続的な都市経 営、人にも企業にも選ばれるいきいきとしたまちを目指します。



市田小学校4年「空とぶ高崎線」

第 2

第

6

章

# 2 まちづくりの目標

まちづくりの目標は、前章までに整理したまちづくり上の現況と課題、市民意向、上位計画を踏まえ、5つの目標を設定します。

下記の5つの視点から、それぞれに対応する目標を設定し、その実現を目指します。

#### 《目標設定の視点と5つの目標》

#### (目標設定の視点) (将来都市像) (まちづくりの目標) ◇交通アクセスの利便性向上 ◇医療・福祉等の暮らしを支え 目標① 「コンパクト・プラス・ 「利便性」 るサービスの充実 ネットワーク」化 に関すること ◇AI・IoT 等新技術への対応 されたまち ◇多様な市民生活を受け入れる 環境づくり 未来に向 ◇全世代が日常生活を楽しめる かっ 目標② 空間の充実 「楽しみ・愛着」 自然の中で ◇愛着のある地域資源の保全・ スポーツや文化に親しみ て人や に関すること 活用 愛着の持てるまち ◇スポーツ・文化に親しめる環 境づくり 地 域 がが ◇誰もが暮らしやすい住環境の まとまり 整備 目標③ 「生活」 ◇時代に合った地域コミュニテ 快適で魅力ある に関すること ィの醸成 緑あふれるまち ◇緑や自然と共生する生活環境 づくり つ ながるまち ◇犯罪の起こりにくいまちづく Ŋ ◇災害リスクを受け止め、被害 目標4 「安心・安全」 安心して暮らせる を軽減するためのインフラの に関すること 安全なまち 強化と防災体制の充実 くまがや ◇被災対象を減少させるための 居住エリアへの誘導 ◇新しい時代・多様な働き方へ の対応 目標(5) 「働く」 ◇どの世代も働きやすい環境づ ヒト・モノが集まり に関すること < n 活力ある産業が育つまち ◇職住近接、職住融合を意識し

た産業誘導



#### 目標① 「コンパクト・プラス・ネットワーク」化されたまち

### 「利便性」 に関する こと

- ◇県北の中心地として、人々が必要とする都市機能を集積し、利便性の 高い拠点を目指します。
- ◇各地域の特色を生かした市民生活を守っていくため、人口減少·少子高齢化の中でも地域の医療・商業・福祉等の都市機能を維持・充実させます。
- ◇子育て関連機能等を充実させ、都市の魅力を高めることで少子化の抑制を図ります。
- ◇市内の拠点への移動のしやすさや市外への良好なアクセスを組み合わせた利便性の高い交通ネットワークを形成します。
- ◇時代の変化に柔軟に適応し、ニーズに対応した都市機能を配置できる 都市を形成します。

#### 目標② 自然の中でスポーツや文化に親しみ愛着の持てるまち

#### 「楽しみ・愛着」 に関する こと

- ◇地域資源を生かし生活を楽しむ空間として、スポーツ・文化・健康拠点を形成します。
- ◇歴史・文化などの魅力を感じ、人々が交流する空間として、観光交流 拠点を形成します。
- ◇水辺や緑に親しみ安らげる空間の維持・充実を図ります。
- ◇循環型社会の形成や地球温暖化対策によって環境負荷を低減し、自然 環境を保全します。
- ◇魅力的な店舗や歴史ある街並み・文化など、地域の特徴を生かしなが ら、新しい楽しみ方を感じられる空間を創出します。

第6章

#### 目標③ 快適で魅力ある緑あふれるまち

「生活」 に関する こと

- ◇ゆとりある環境の中で自然に触れ、かつ、高い交通利便性等を享受でき、豊かに暮らせるまちづくりを推進します。
- ◇自然環境と共生し、多様なライフスタイルに対応可能な住環境を形成 します。
- ◇スマートシティの形成やグリーンインフラの活用により、暑さと共存できる快適で持続可能な住環境を形成します。
- ◇暮らしを支える都市施設は、今後の社会情勢の変化や人口減少・少子 高齢化等への対応を図ります。
- ◇子どもから高齢者まで安心して暮らし続けられる住環境を形成するため、多くの人が参加できる地域コミュニティづくりを行います。

#### 目標④ 安心して暮らせる安全なまち

「安心・安全」 に関する こと

- ◇地域コミュニティと連携した犯罪の起こりにくいまちづくりを推進します。
- ◇ハード対策とともに、災害情報の周知・共有の強化や、避難体制整備 等のソフト対策を推進します。
- ◇災害リスクの低いエリアに居住を誘導する「防災の観点からのコンパクトな都市構造」の実現を目指します。
- ◇グリーンインフラを生かした防災・減災対策を推進します。

### 目標⑤ ヒト・モノが集まり活力ある産業が育つまち

「働く」 に関する こと

- ◇都市の活力を生み出すため、工業・商業・農業を活性化します。
- ◇広域交通ネットワークや新技術を生かした働く場の形成を目指します。
- ◇広域交通ネットワークを生かした工業・物流系等の企業誘致を推進します。
- ◇職住近接・職住融合が実現できる住環境や労働環境の形成を推進します。





佐谷田小学校4年「にじ色タウン」



妻沼小学校1年「ニャオザネとゆめのこうそくれっしゃ」